

令和4年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第6号

令和4年7月4日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター
TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- ・中干し終了直後は走り水程度とし、徐々に湛水状態に戻しましょう。
- ・葉色を維持し収量・品質を確保するため、追肥を行いましょ。
- ・いもち病の発生に注意し、発生が確認された場合は速やかに防除しましょ。

1 気象の概況

表1 気象経過（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月 上旬	13.6	-2.7	41.5	64%	76.5	194%
6月 中旬	18.2	0.6	67.7	138%	7.0	13%
6月 下旬	23.1	4.3	60.7	133%	9.0	15%

【6月の気象】

上旬は低温、寡照、多雨で生育は停滞しましたが、中旬から下旬には高温となり、生育は旺盛となっています。

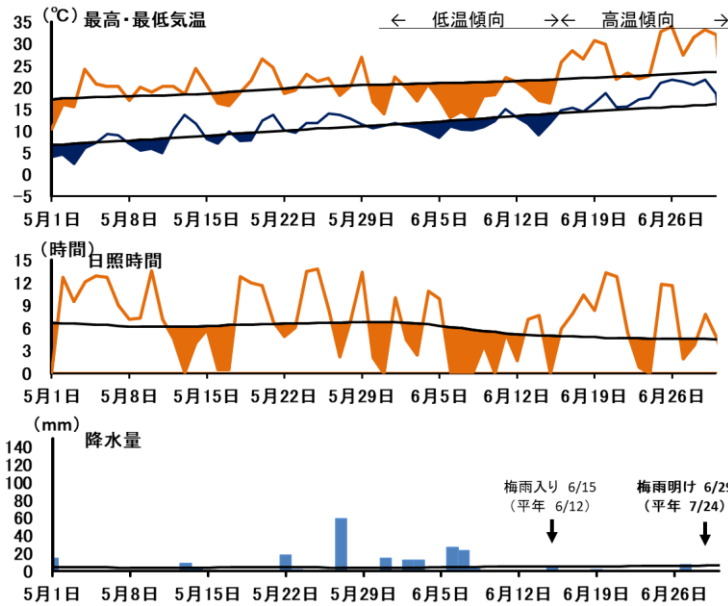


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月1日～6月30日）

2 水稻生育調査ほの生育概況

表2 水稻生育調査結果（7月1日調査）

品 種		田植日	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	20.7	47.1	596.2	38.3
	前年比・差	-1	105%	97%	105%	+3.1
	平年比・差	-4	105%	107%	99%	-1.1
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/11	19.2	51.1	520.3	37.7
	前年比・差	-2	105%	93%	110%	-1.1
	平年比・差	-2	107%	101%	105%	-1.7

注) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値（志津川は平成30年からの4か年平均）。

- ・6月上旬の低温により、生育は平年・前年を下回っていましたが、6月中旬以降の高温・多照により、前年・平年並から上回る生育となっています。いずれも幼穂形成始期（幼穂長1～2mm）の直前であり、生育はかなり進んでいます。
- ・幼穂形成期の茎数の目安は470～530本/m²であり、本吉でやや過剰となっていますが、葉色の急激な低下はなく、今後の追肥で生育を調整できる範囲です。

3 今後の管理の留意点

【中干し】

- 中干し終了直後は走り水程度とし、徐々に湛水状態に戻しましょう。
 ※急に水を張ると、根を傷める危険があります。
 ※幼穂形成期前に完了するのが基本ですが、今年は高温により幼穂形成期も早まる見込みです。**未実施のほ場は、速やかに中干しを実施しましょう。**
 →すでに中干しを実施・完了したほ場も、無効分けつの発生を抑制するため、幼穂形成期（本年：7月3日、前年：7月6日、平年：7月10～12日）までは走り水（表面に浅く水を行き渡らせる）程度とし、土の硬さを保ちましょう。

【深水管理】

- 「最低気温 17℃以下」または「日平均気温 20℃以下」が数日続く場合、花粉の形成がうまくいかず減収につながる可能性があります。
 →幼穂形成期（出穂 20～25 日前）の低温時には、水深 10cm 程度に湛水してください。

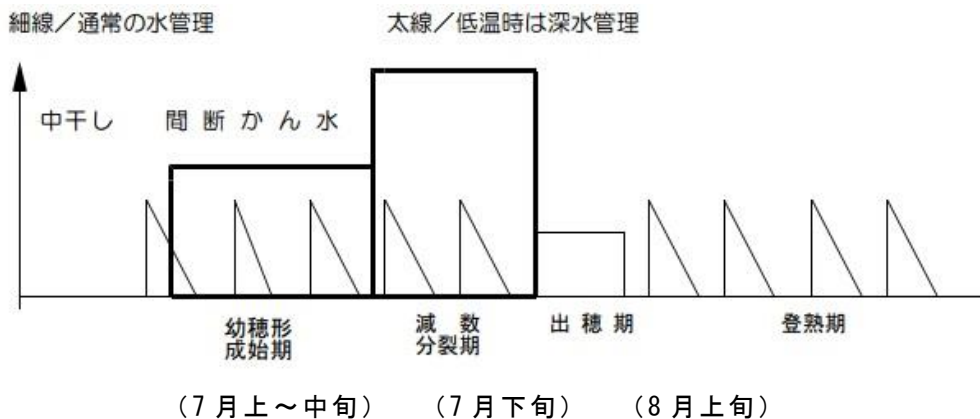


図2 出穂期までの水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

【追肥】

- 収量・品質の確保には、幼穂形成期、減数分裂期の追肥が効果的です。特に、高温時は水稻の活力維持に有効なため、生育目標値（表3）を参考に、幼穂形成期と減数分裂期に追肥（窒素成分量それぞれ 1kg/10a）※を施用しましょう。
 ※葉色が濃い場合や草丈が長い場合、茎数が多い場合は追肥を省略・減量してください。

表3 適正穂数及び品質を確保するための生育目標値「ひとめぼれ」（普及に移す技術第86号）

	分けつ最盛期頃	最高分けつ期頃	幼穂形成期頃	減数分裂期頃
草丈(cm)	32～34	45～48	56～59	66～69
茎数(本/㎡)	310～360	460～520	470～530	450～500
葉緑素計値	41～44	40～42	38～40	35～37

※生育ステージの記載は、暦日を基に一部改変した。

※減数分裂期頃の葉緑素計値は期待葉色値を用いた。

表4 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ	時期		出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
	本吉「ひとめぼれ」平年値				
幼穂形成始期	7月12日		25日	1～2	-
減数分裂期	始期	7月22日	15日	30～40	-10
	盛期	7月25日	12日	80～100	±0

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を予想することができます。

【雑草防除】

- 初中期一発剤を散布したほ場でも残草があれば、雑草の種類や葉齢、稲の生育ステージを確認し、中・後期剤等を適期に散布しましょう※。
※雑草がすでに大きくなっている場合は、比較的効果の高い茎葉散布剤や粒剤の落水散布を検討してください。その際、水尻はきちんと閉じましょう。
- ヒエやイヌホタルイ、シズイ等の雑草は、稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せ、斑点米発生による落等につながります。雑草対策を徹底しましょう。

【病害虫防除】

○いもち病

- いもち病の感染が始まっています。箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤（粒剤、パック剤）を速やかに散布しましょう。
- 箱施用剤等による予防防除を実施した場合でも、発病がみられたときは、速やかに茎葉散布剤で防除してください。
- 葉いもちは、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。予防防除が基本であり、発病が進展してからの防除では十分な効果が期待できないため、水田をこまめに見回り、早期発見と防除に努めましょう。
→特に、追肥後は罹病しやすくなるため注意してください。
- 病害虫の発生予察情報や最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は、県病害虫防除所ホームページで確認できます。URL (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>)
※発生予報第4号では、県内の葉いもち発生時期は平年並の7月6～10日に発生開始、発生量はやや少ない予想となっています（宮城県病害虫防除所 令和4年6月24日発行）。

○だて正夢の栽培管理

表5 だて正夢現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	21.0	49.7	520.8	34.9
	前年比・差	-3	100%	102%	83%	+3.4
	平年比・差	-3	106%	106%	110%	-4.5

注) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値

- ・幼穂形成始期の直前になっており、生育は早まっています。
- ・幼穂形成期の生育目安は、莖数 390~460 本/㎡、葉色 40~42 です。莖数は十分確保できていますが、葉色は低くなっています。
- ・標準の追肥は減数分裂期（7月25日頃）に窒素分 2kg/10a ですが、葉色の低下が早い場合は、前倒して窒素分 1kg/10a 程度の実施も検討してください。

○金のいぶきの栽培管理

表6 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
金のいぶき 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	19.4	49.2	560.7	37.4
	前年比・差	±0	102%	106%	102%	+5.5
	平年比・差	-	-	-	-	-

注) 金のいぶきは令和3年度から調査開始のため、前年比・差のみ

- ・幼穂形成期の直前になっており、生育は早まっています。
- ・幼穂形成期の生育目安（表7）は、莖数 570~620 本/㎡、葉色 33~35 です。莖数・葉色とも概ね十分確保できています。
- ・標準の追肥は幼穂形成期（7月中旬）、減数分裂期（7月下旬）にそれぞれ窒素成分量 1kg/10a です。また、穂揃い期にも同量の追肥を行うと、収量・品質確保に効果的です。
- ・「金のいぶき」は、いもち病に非常に弱い品種なので、普及に移す技術「「金のいぶき」のいもち病防除体系 追補（第93号参考資料）」等を参照し、育苗箱施用剤を使用している場合でも、水面施用剤（パック剤・粒剤）や茎葉散布剤の体系処理を検討してください。

※「金のいぶき」の作付けにあたっては、「水稻新品種「金のいぶき」生産対策実施要領」に基づく登録が必要となるため、詳しくは最寄りの農業改良普及センターまたは県みやぎ米推進課に確認してください。

表7 金のいぶきの生育量の目安（宮城県「普及に移す技術」第95号）

項目	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
	7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈 (cm)	65~70	83~88	
莖数・穂数 (本/㎡)	570~620	490~540	460~510
葉色 (SPAD値)	33~35	30~32	31~33
主茎葉数 (葉)	11.0~11.4	12.0~12.4	12.9~13.3

○直はの栽培管理

表8 水稲直は現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		播種日	播種密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ	本 年	5/7	19.4	37.0	371.7	39.3
気仙沼市	前年比・差	+1	90%	101%	44%	-0.4
(本吉町)	平年比・差	-5	94%	113%	68%	-0.3

注1) 播種方式は鉄コーティング湛水直は（点播）によるもの。

注2) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値。

- 茎数が中干し開始の目安（310～360本/㎡）に達したため、速やかに中干しを開始しましょう。
- 鉄コーティング湛水直はは土壤表面に播種しているため、移植栽培と比較して倒伏しやすくなります。溝きりや中干しをしっかりと行い、倒伏を軽減しましょう。
- 今後発生してくる雑草や病害虫は、基本的には移植栽培と同様に実施します。
→ただし、直は栽培は移植栽培と比較して7～10日程度生育が遅くなるため、斑点米カメムシ類等の防除時期も生育にあわせるように注意しましょう。

○東北地方の1か月予報（7月2日～8月1日までの天候見通し）によると、予想される向こう1か月の天候は次のとおりです。

期間中の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込みです。

（仙台管区气象台 令和4年6月30日発表）

（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month）

○気象から見た栽培管理のポイント

→高温が予想されるため、葉色が淡い場合はなるべく追肥を行いましょう。

→降雨や昼夜の温度差による結露、追肥による抵抗性の低下により、いもち病（葉いもち）が発生しやすくなる時期です。

→育苗箱施用剤や水面施用剤（パック剤・粒剤）をまだ施用していない場合は、速やかに散布するとともに、すでに防除を行っているほ場も発生がみられる場合は追加防除の実施を検討してください。

→7月の気温は高い見込みであり、最低気温が17℃を下回る可能性は低いですが、天気予報に注意し、低温が予想される場合は10cmの深水管理を行いましょう。

○7月以降も引き続き高温が予想されています。

・熱中症にならないよう、作業前・作業中に定期的に塩分・水分を補給するとともに、休憩をとりましょう。

・具合が悪くなった人へは、下記の応急処置を行いましょう。

① 涼しい場所に移動する。

② 衣服をゆるめ、首や足の付け根、脇の下を冷やす。

③ スポーツドリンクなどで塩分・水分を補給する。

※呼びかけに回答できない、自力で水が飲めない、上記処置をしても体調が回復しない場合は、**ためらわず直ちに救急車を呼びましょう。**

■熱中症対策の詳細は下記も参考にしてください。

厚生労働省

「熱中症を防ぐために知っておきたいこと熱中症予防のための情報・資料サイト」

URL

（https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/nettyuu_taisaku/index.html）

○6月1日～8月31日は「令和4年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL（<https://pesticide.maff.go.jp/>）